

以新古鼓

特 別  
チ12  
3656  
41





りやとあふりりふ旅のあは  
はあふふは者大母乃者ふて  
あつる習番おるうこく仕る人  
晏てふいうふ尸上は清次りる者  
翁をや少りぬきる人 たふよと  
清次り翁よりわぬきると尸の  
言はるる方るぬきう宮あふりわ

望く尸付てあるふた様より由り  
仕てあう相は夫乃子ハたふり  
いや子ハあくは 妻ハたふり  
う祈ハは座ハ 妻あうハ意  
うれ女を祈りてきくわん  
晏てふ 言 科人を召こめく執人  
う魚ハ女もあての侍罷科ハ解り

法橋あうあうらん 早 りつ小女

こくもめり妻乃清次と兼務哉

破豆矢ぬ夫婦形るなまこハ高ぬ

事ハいさきりまはすこふらん

こもとわ跡き未を破ハ我方跡

たすうわん哉あう晩らん何事

わいむはかく世中さらん能ふ

夢ももきりらん 早 りつ何と

中ともさくぬ事ハいあ家者

せんと海居乃あ〜見程お川との

かりりこ小勢者さ〜をいあり所を

た〜せんとも 上まの女をひき

あ〜〜〜勢者ふならん海〜と

〜〜〜勢者ふならん海〜と

あーとておもへ共教者科を  
ト  
乃々えぬ報ひの程うむさん  
ト  
たろくやあつとぬい女よ  
向ひは事成りしすうを覚後  
なるにふたつて清次なも舞よわ  
ふりひてあはう所後とよわい  
教を掛く一冊はく時ふらばく

番を仕置らん  
うらよあまのいさかあまうん  
ト  
はつてはつてめせ袖ふたま  
さつてあひ人を見ぬ目能渡り  
いふや言はれり勢中おをせなる  
粗きよわわてんやうは由を  
アさうしるよんいふ上



くぬふに寝るなむかへかたなむ  
何くよほまゆめをまじりて  
やうきよひとほてぬをまじりて  
出ひぬまらひくみりく

しつ

あつにほせ覚えぬおれはひまふ  
あり所をなむかへかたなむ  
業をひなむかへかたなむ

詞

あり所をなむかへかたなむ  
あつにほせ覚えぬおれはひまふ  
業をひなむかへかたなむ  
あつにほせ覚えぬおれはひまふ  
業をひなむかへかたなむ  
あつにほせ覚えぬおれはひまふ  
業をひなむかへかたなむ









益馬一我妻の面影よ  
娘一也勢めくくま方か  
たちてしうの二世乃  
へははははははははは  
妻熟乃は熟也あな  
此并くはく人冬預すハ  
は六見あま夫婦せよ  
物と好う

白

やとく出らん  
されいとく法何い  
はハ妻はあり所務  
人あまハうねへ  
以境  
あつわたははははは  
あつわたははははは

詞

早

物き身カ松浦乃川也西カ海カ

りの國カらカりカきカ 執樂カ能カ 疎カ他カ

想カ成カ乃カ想カひカうカやカ科カをカたカ寸カとカ係カ

あカつカれカるカのカ登カりカ難カ乃カはカ盡カ也カ

都カ而カ可カ口カをカ綴カるカんカぐカ過カ程カ

業カをカ取カはカしカ本カ乃カしカるカんカよカ解カ理カ

考カてカ結カふカちカまカらカひカはカ浦カひカきカよカ

松浦乃川也二世カ能カ誠カ実カ乃カ難カきカ

あカつカ海カうカ取カくカ

